

## 第49回宮古体育大会 今後の優勝争いの展望について

7月17日（日）、総合開会式を取りやめ、記者会見発表により砂川恵助スポーツ協会長より「第49回宮古体育大会」の開会宣言がなされた。

7月31日（日）のゴルフ競技で幕を開けた各競技は日程も順調に進み、8月21日現在で17競技中10競技が無事終了致した。（水泳競技は8月10日に中止決定）

現段階で総合成績をチェックすると、上位の学区に、①平一（81.0）②上野（59.5）③北（52.5）④久松（50.0）⑤東（44.0）⑥下地（40.0）⑦南（36.0）⑧西辺（31.5）の順位となっている。

コロナ渦での中止前に大会が実施された前回大会（2019年）に比較すると、平一学区の躍進が著しく、男女別と総合の3本の優勝旗をさらった北学区の停滞が目につく。北学区は例年に比べ、幾つかの競技での不参加が響き、得点源であった「水泳競技」の中止も伸び悩みの原因となっている。

今後の優勝争いの展望を予測すると、残す競技は「ハンドボール」「柔道」「自転車」「角力」「陸上競技」の採点種目5競技と、「グラウンドゴルフ」「ラージボール」の非採点種目2競技のみとなり、上位学区が採点種目5競技に何種目エントリーして得点を重ねられるかが判断材料である。

特に最終種目の「陸上競技」は、男子、壮年、女子の3種に分別されており、一気に30点を得点し、逆転することもまだまだ可能だ。

参加申し込み期限も9月16日と若干余裕があり、上位入賞を狙う学区にとっては体協役員の努力で選手層を厚くし、エントリー数を増やしていくことが今後の逆転の鍵となってくる。前回大会の実績からすると、陸上競技に強い、西城、上野、北、西辺、久松、多良間の各学区が虎視眈々と逆転を狙うとすれば、優勝レースは混沌として、ますます面白くなるだろう。

スポーツ協会の砂川恵助会長は、「各競技団体が徹底したコロナ感染対策をしながら競技運営に尽力していることに敬意と感謝を表したい。スポーツのもたらす力で笑顔と交流、日々の充実が住民の間で広がっていけば「体育大会」を開催した意義がある。」と評価した。

2022年（令和4年）8月21日  
文責：（一社）宮古島市スポーツ協会  
専務理事 宮國敏弘